

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31年 2月 17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600028
法人名	社会福祉法人滴々会
事業所名	グループホーム音野舎Ⅱ
所在地	鹿児島県南九州市知覧町郡2069-2 (電話) 0993-58-7181
自己評価作成日	平成31年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他人に対し自分に対し「明るく・温かい心・笑顔」をモットーとし入居者との関わり・御家族との関わりを大切に、お互いが気軽に話し合えるような関係を築けるように日々努めています。レク活動では「考える力・想像力」に繋がれるように脳トレと称し簡単な計算問題・文字の練習、想像力を活かせるような塗り絵を実施しています。また週に1回作業療法士による合同レクや、食事会等でユニット同士の交流を深めています。健康面では併設の訪問看護ステーションの24時間オンコール・定期的な健康チェックを実施しており不安の無い毎日を提供できていると思います。年間を通しての大きな行事などは家族にも声を掛け法人全体で行い隣接の特養・ケアハウス・デイサービス・多機能ホームの方々と良い交流の機会となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に全員で理念を読み再確認している。実践に繋がれるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域密着型の行事として幼稚園の慰問等を企画し参加している。また地域の行事などには天候や利用者の体調・職員の体制次第で出来るだけ参加するようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の視察等があった時に生活の場を見てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>生活・活動状況・ヒヤリハット内容を報告し検討。質問等があれば対応し今後の生活支援に活かせるように努めている。</p>		
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>推進会議に出席して頂いており状況を報告したり、事故報告があった時は速やかに報告している。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>現状では身体拘束は無い。推進会議や法人の安全衛生委員会の際に身体拘束の有無を報告している。実際に行う場合は規定通りに対応する予定である。玄関は施錠せず離園の恐れがある方は見守りを行い、玄関のドアに鈴を付け対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人の研修・事業所主催の勉強会に参加し「虐待防止」を意識し日々の支援に努めている。参加出来なかった職員に関しては伝達を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人の研修に全員参加。業務の都合等で参加できなかった職員に関しては資料の配布・伝達を徹底している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に「重要事項」「利用契約」を説明し質問等があれば対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営規定は玄関に冊子を置いて面会の方に見ていただけるようにしている。「意見・苦情箱」を玄関に設置し自由に投稿していただけるようにしている。面会時に状況を報告したり随時家族・本人の要望を聞ける体制にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議やミーティング等で各会議での決定事項等を報告。必要に応じて問題提起し意見や助言をもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の会議等による業務改善報告、各事業所の主任を通して勤務状況の把握や資格取得のための研修案内、介護職員の職位、職責又は勤務内容に応じた任務等の要件を定めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については法人主催の研修や事業所での勉強会を開催している。外部研修に関しては職員の申し出があれば参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の人員の都合上、決まった職員しか参加できていない状態である。勤務外での個人的な交流で情報を仕入れている職員もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日に担当者会議を実施。本人・家族より情報収集を行うと共に日々の生活の中でもコミュニケーションを図りながら安心して生活してもらえよう関係づくりに努めている。また不安にならないような言葉かけに気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日の情報収集や面会時などに近況を報告を行い誠意を持って対応し良い関係・信頼関係が作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み時や相談時に必要と思われるサービスを検討し提案・紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を自分でする事で生活している事を感じて頂けるとは思っているが実際は職員が手を出している場面がみられる時がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時にしか来園しない家族もあり一部の利用者は家族との関係が希薄になってきているように感じる。散髪や外出等で一緒に過ごす時間が持てたらと思っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や地元巡りをし馴染みの人との再会や場所との関係が途切れないように支援している。近所の人の面会も受け入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や性格等を考慮しフロアの席を決めている。利用者同士が関わり合い、良い関係作りが出来るように時には職員が間に入ったりして孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談や支援を行っている。職務外でも再会する機会があればあいさつをし近況を語り合ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や介護保険の更新時に本人・家族を交えた話し合いを行い生活に対する意向・希望を確認しサービスに反映できるように支援している。変化があった時には家族に連絡を取り合いながら随時対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から聞き取りを実施している。また日々のコミュニケーションの中からヒントが得られるように傾聴に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で状態観察に努め記録に残し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士、随時情報・意見交換を行い訪問看護師、家族、主治医に相談している。必要に応じて計画の見直し・変更を行っている。また定期的に訪問看護師を交えたカンファレンスを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事を生活シートや介護日誌に記録として残し情報を共有している。振り返り実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望・家族の状況により病院受診や買物の代行をしている。体調管理は併設の訪問看護ステーションが24時間体制にあり本人・家族・職員の安心感に繋げている。理学療法士・作業療法士も週1回は来園し機能訓練を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議委員に市職員・地域代表・家族代表の方々に依頼している。避難訓練にも地域住民や消防署の立会いも依頼し協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は主治医と連絡を取り合い家族が対応出来ない時は職員の付添い・送迎をしている。定期受診時にはバイタルチェック表や主治医に書面等で情報を提供、往診時には職員が立ち会って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設の訪問看護ステーションが24時間オンコール可能である。看護師による健康チェックを実施し介護員との連携が図られている。定期的にケアカンファを実施し医療従事者からの専門的な意見や指示をもらうようにしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には情報提供書を作成し病院との情報の共有に努めている。病院訪問を行い看護師に近況を聞くと共に関係作りに努めている。退院の連絡が来たら再度病院を訪問し状態を把握したうえで御家族と相談し退院の調整を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に緊急時の対応については家族に意向を確認している。身体機能が低下しホームでの生活が難しくなってきた場合は家族に相談し特養入居等を提案している。スムーズに対応出来るように関係各所と連携を取り支援している。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	事業所主催の研修で訪問看護師を中心に勉強会をしている。法人でも同様の勉強会があり全員参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間想定・夜間想定で避難訓練・非常招集訓練を消防署・地域住民、他事業所の協力をもらいながら実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めて慣れ合いな声かけになっている時がある。利用者に合った配慮や声掛け・対応を行っている。夜間は居室入り口は完全に閉めてしまうと見守りが難しい利用者もおお10cmほど開けて対応している時もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が行動を起こす時は見守りを行い職員が「待つ」事をしている。危険が伴う時は一緒に行動し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の希望を取り入れて無理強いをしないようにしている。ゆっくり生活できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の選択はなるべく本人に決めてもらうようにしている。整髪や顔の手入れ等も本人のペースに合わせて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーや内服の関係で禁忌の食材等は職員で共有し配膳時にも確認をして提供している。また咀嚼が難しい利用者にはキッチンバサミで個別にカットしたりミキサーにかけたりする。調理の準備・片付けは年々難しくなって来ているがレク時に職員と一緒に作る事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をあまり摂られない利用者に関しては好きな飲み物を提供し水分補給に努めている。献立は管理栄養士に確認をしてもらい摂取量は各自の生活シートに記載。摂取状況が悪い時には看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし見守り・付添いを実施。個々に応じた口腔ケアをしている。毎週3回夜間にポリデント消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や排便チェック表を活用し誘導や声かけを行っている。失禁等があった時は速やかに交換をし清潔に努めるようにしている。状況によってはパットの種類等を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には水分を多めに促したり一緒に体を動かすようにしている。排便ノートを活用し必要時には下剤でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意向を確認し拒否がある時は無理強いせず時間を置いたり日にちを改めたりしている。夜間の入浴は難しいが出来るだけ本人の希望に沿った時間・湯加減で対応し焦らずゆっくり入浴して頂いている。入浴後の水分補給も促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすい利用者もおおり体調や時間を見て自室でゆっくり休息して頂いている。フロアにはソファがあり誰でもくつろげるようにしてある。夜間は30分おきに巡視を行い安心して休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違えが無いように2重3重の確認をし誤薬の予防に努めている。内容を全職員が把握しているかと言えばそうとは限らない。薬状はいつでも確認出来るようにファイルに綴ってある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事を計画し楽しんで頂けるように努めている。また日々のレク内容を飽きないように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候が良い時はドライブや散歩に出かけるようにしているが固定された利用者になってきている。家族にて外出の要望があれば対応出来るように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭の管理をしている利用者もいるが、家族からの預り金は職員で管理している。外出時は幾らか渡し、買物を楽しめるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個人の携帯電話を所持している方や幼馴染と文通をしている利用者もいる。利用者が電話をしたいと要望が合った際は対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには利用者と一緒に季節の壁画作りをし壁に飾ったり季節の花を生けたりしている。トイレは排泄物を流さない利用者もおり他利用者が不快にならないように職員が確認を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置しておりいつでもくつろげるスペースを確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に家にある家具を持参して頂いている。見慣れた家具がある事で安心できる空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで歩行の導線上に障害物を置かないようにして安全に歩行が出来るようになってきている。トイレや自分の部屋がわからなくなる利用者に配慮し分かりやすいように表記している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない